４　おわりに

以上、令和８年度の市政執行に臨む、私の所信の一端を述べさせていただきました。

現在、北海道は次世代半導体プロジェクトの本格化や、国際的な観光需要の回復など、かつてない大きな変化とチャンスの渦中にあります。この追い風を本市の活力へと確実につなげていくためには、時代の流れを敏感に捉え、機を逃さぬ決断が求められております。

私は、「伊達市の将来を見据えたまちづくり」を常に念頭に置き、将来のあるべき姿を見据え、重要課題を先送りにせずスピード感を持って課題解決に取り組むことで、まちを取り囲む閉塞感を打破して参ります。その全ての取組の根底にあるのは、次世代への責任であります。

本市のまちづくりの中心に、常に「子どもの笑顔が真ん中にあるまち」という基本理念を据え、次世代を担う子どもたちが希望を持って健やかに育つ社会を築くことこそが、多世代の幸福と地域の強靭な活力の源泉になると確信しております。

市民の皆さまと共に、将来像である「みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち」を一歩ずつ、確かに形にするべく、全身全霊で市政運営にまい進して参ります。

市民及び市議会議員の皆さまのご理解とご協力を引き続き賜りますよう、心よりお願い申し上げます。